

**令和元年度小田原市立豊川小学校内装木質化改修基本設計・実施設計
事業者選定プロポーサル審査結果**

小田原市では、豊川小学校内装木質化の基本・実施設計業務の実施にあたり、過去 2 校の小学校内装木質化事業の内容を踏まえつつ、木材利用による教育環境改善、地域産木材の普及啓発、地域と学校との関わり方や施設の有効利用など様々な条件を有する事業であることから、柔軟かつ高度な発想力及び豊富な経験や能力をもつ優れた設計者を、公募型プロポーザルによって選定することとした。

選定にあたっては、小田原市立小学校内装木質化改修基本設計・実施設計業務プロポーサル審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置し、公平・公正な審査を行った。その結果、次のとおり優先交渉権者及び次点者を選定したので公表する。

1 審査結果

- (1) 優先交渉権者 マチデザイン・Poten-Poten・ハラヒロカズアトリエ共同事業体
- (2) 次点者 株式会社篠崎弘之建築設計事務所
- (3) 上記以外 株式会社 SUEP
有限会社アトリエワン

2 審査経過

(1) 審査経過

ア 書類審査（令和元年 1 1 月 2 0 日）

8 者から参加資格確認申請書の提出があり、当該申請書の内容について書類審査を実施し、実施要領に違反のないことを確認したうえで、匿名で提案の実現性、設計者としての信頼性及び工事価格に係るマネジメントのあり方を総合的に評価した結果、2 次審査に参加できる 4 者を選定した。

イ プレゼンテーション審査（令和元年 1 1 月 2 7 日）

1 次審査を通過した 4 者の提案書の内容について、個別にプレゼンテーション（2 0 分）及びヒアリング（2 0 分）を実施した。

技術提案書等の内容、プレゼンテーション及びヒアリングの結果を参考に、審査委員会が審査基準に基づき中立かつ公正に審査・評価を行った結果、最も優れた提案を行った者を優先交渉権者として選定し、当該技術提案に次ぐ優れた提案を行った者を次点者として決定した。

(2) 審査委員会委員長

座間 亮 （小田原市経済部長）

(3) 審査委員会アドバイザー

長澤 悟 （東洋大学名誉教授）

3 審査講評

小田原市立豊川小学校の内装木質化事業は、3年間の木質化モデル事業の最終年度にあたる。総仕上げとして、これまでに事業実施した2校の内容を踏まえ、さらなる地域産木材の活用方法とともに、それにより木のよさを体感しながら児童が豊かな学校生活を送ることができ、学校が地域コミュニティの活動拠点となる提案を求めるものである。

豊川小学校は市内で最も児童数が多く、余裕教室が少ないという特徴がある。応募者には短期間の中で小学校の現状を理解した上、一定の事業費の中で児童、教職員、地域の人々に木材利用の効果が伝えられ、地域産材の活用の可能性、そのための市内の体制づくりにつながる提案が求められた。

優先交渉権者に選定された「マチデザイン・Poten-Poten・ハラヒロカズアトリエ共同事業体」は、学校生活で比重の高い普通教室の木質化を含め、余裕教室がない中、児童の交流スペースや地域活動拠点を確保する工夫など、学校全体の環境改善を図ることを視野に入れた計画となっている。歩留まりの向上、活用方法が課題となっている虫害材活用の教育効果、コスト・工期縮減等、これまでの2年間の事業の成果も生かしながら総合的な提案がなされていることが高く評価された。

次点の「株式会社篠崎弘之建築設計事務所」は、豊川らしさ、豊川小学校らしさを主題とし、“つなげる”をキーワードとしてイメージ豊かに提案がなされている。モデル事業の継続性を意識しながら新たな木材利用方法がその生かし方まで含めて述べられており、評価された。地域と連携・協働できる具体的な空間づくりについての提案がやや弱かった。

「株式会社 SUEP」は、学校環境を整える上で収納や掲示の重要性に着目し、本校の廊下空間の特性に対し、廊下空間をメインにした木質空間づくりと、大きく開かれた図書スペースの提案がなされている。広範囲にわたり木質化された空間のイメージはとても魅力的である。一方、提案の実現性や実行可能性について懸念が残り、地域との連携に関する提案にやや欠けるところがあった。

「有限会社アトリエワン」は、木が児童に与える効果について、児童の目の高さ以下の空間に焦点を当て、コストや工期を考慮し、モジュール&アセンブリーとして“すのこ”をシステム化して空間や場面に応じた木質化の提案がなされている点で説得力があった。木材活用に関する市内の地力をつけようという本事業の趣旨に応じた提案が物足りない印象があった。

このほか、惜しくも二次選考に残らなかった4者の応募案にも、木ルーバー天井による量感のある木質化の提案、窓枠や建具などを中心に木質化し学校空間全体のイメージを変える提案、板材に合板を組み合わせ面的に木質化を図る提案、地域や子供を巻き込んだ環境改善ワークショップの提案等、意欲的な提案をいただいている。

多様で広範囲に及ぶ評価項目が設定され、それに対して大変短い期間であったにもかかわらず、各者とも本市の地域特性や問題意識を的確に捉え、柔軟かつ高度な発想による技術提案をいただいたことに、審査委員会委員長として深くお礼を申し上げます。

令和元年12月12日

小田原市審査委員会委員長

座間 亮